

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立武雄高等学校	C: やや不十分である D: 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・入試問題研究や授業の教材研究及びICTの利活用など、教職員の学力向上の取組はできているが、引き続き、進路実現に向けた生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育を推進していく必要がある。 ・コロナ禍で校外活動は制限されたが、武雄市とのまちづくり参画事業や探究活動を通した研究発表、水害後のボランティア活動など、地域や社会に目を向けた活動が積極的に行われた。また、コロナ禍における自己の健康管理や校内の環境美化、本校生としての身なりやマナーの意識づけも良好であった。 こうした本校の活動に対する保護者や地域からの理解が入学者選抜の志願者の増加につながっていると思われるが、今後一層、地域に信頼される学校づくりをしていく必要がある。 ・いじめや不登校の生徒への適切な対応はできているものの、多様な生徒への支援を含め、教育相談体制の充実を図る必要がある。また、業務改善や働き方改革を踏まえた機能的、効率的な組織運営については今後も検討していく必要がある。	
2 学校教育目標	高い志と未来を切り拓く力を持ち、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の実現を目指して、地域や国際社会が抱える課題解決に向けて主体的に行動できる人間性豊かな人材を育成する。	
3 本年度の重点目標	①高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし、継続性を持った中高一貫教育の推進 ②基礎から応用までの教科指導の充実や、生徒が深く考える活動を通しての進路目標の実現 ③アクティブ・ラーニングやICT利活用を手段とし、主体的な学習活動ができる授業の推進 ④持続可能な社会の実現を目指し、地域や国際社会が抱える課題解決に向けて主体的に行動することができる人材の育成 ⑤様々な教育活動や生徒支援による、心身の健康の増進と豊かな心や想像力の育成 ⑥保護者や地域との連携を深め、広く共感と信頼を得られる学校づくりの推進 ⑦教職員の指導力向上、働き方改革を踏まえた機能的・効率的な学校運営による組織力の強化	

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				
(1)共通評価項目								主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○教職員の指導力向上	○大学入試研究会を各教科で年2回実施する。 ○各種研修会に10名以上の教職員が参加し、基礎的レベルから応用・発展レベルまで対応できる指導力を身に付ける。	・大学入試問題研究等の実施によって、より実践的な知識と技能を身に付け、日常の授業への応用を図ることにより、授業内容の改善に取り組む。 ・校外の入試研究会や教科の講習会等に積極的に参加し、入試問題や入試動向等の研究を行う。	B	・大学入試問題研究を各教員が、自分の担当学年やニーズに応じて行い、授業の中で生徒に身につけさせる力を理解し、授業に活かすことができた。 ・オンライン型の研修会や校外での研修会に24名の教員が参加し、新教育課程に対応した教科指導法の改善につなげることができた。	B	・入試研究会や教科の講習会等に積極的に参加し、指導力の向上に努めてほしい。 ・教材研究を充実させ、分かりやすい授業、魅力ある授業の実践に努めてほしい。	進路指導部
	○生徒の実力養成	○全国模試総合偏差値60以上を各学年75名以上にする。 ○1・2年生の全国模試平均偏差値の目標を国、英、数は58以上、地歴・公民、理科は60以上とする。3年生は全国模試平均偏差値の目標を55以上とする。	・学習時間調査、進路希望調査の実施や、「学習と生活の記録」を活用し、生徒の日々の生活状況を把握し、指導に活かす。 ・職員研修の充実による教員の授業力向上を図る。 ・模擬試験を受け、教科担当者会議を実施し、模擬試験の結果を検証し、授業方法を見直し、新たな目標を設定する。	B	・11月の全国模試では総合偏差値60以上の生徒が3年生39名、2年生55名、1年生80名であり、1月の全国模試では総合偏差値60以上の生徒が2年生61名、1年生88名であった。1年生は目標を+13名達成、2年生は目標-14名と届かなかった。3年生の模試は過年度生も受験するため偏差値は厳しい結果となっているが、国公立大学の合格者は115名で目標値の86%を達成することができた。各学年とも学習時間の確保が課題である。	B	・生徒の希望進路実現のために、きめ細かな指導を実践されていると感じた。 ・ほとんどの生徒がスマートフォンを所持する中で、家庭における学習時間の確保を保護者と協力しながら取り組む必要があると思う。	進路指導部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の実践	○ホームルーム活動や校外活動を通して、他者への思いやりや心育てる。校外活動に参加した生徒を1・2年生の50%以上にする。 ○人権教育の全体教育に基づいて授業【人権・情報モラル】を行った教員を80%以上にする。	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定して考えさせる。 ・校内外の体験活動の意義を明確にし、関連する情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。 ・武陵祭でのクラス企画などグループ活動を通して、助け合いの心を育む。	B	・校外活動は、コロナ禍で多くの生徒が参加していたイベント型の活動が少なく残念だったが、いくつかのコンテストに応募する生徒やプレゼン大会にも学校側からの呼びかけに応じて参加する生徒がみられ、作品や研究の発表の機会を得られた。 ・教員の80%以上が人権教育の全体教育に基づいて人権・情報モラルに関する授業を行った	A	・自立活動の視点から子どもを理解することが一層求められず、「みんな違っていい!」「どの一人(子)も大切に!」「子どもたちはみな一人ひとり違う存在である!」という発想が大切である。 ・家庭や学校において、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感などをしっかりと教える必要があると思う。	企画研修部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見に努めるとともに、認知事案に対しては早期解決に努める。 ○いじめ防止(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)や教育相談の体制について組織的対応ができていないと回答した教員を80%以上にする。	・学校行事や部活動において、生徒自身が集団との一体感を持てる取り組みを工夫することによりいじめの起こらない雰囲気を作る。 ・「いじめはどの学級でも、どの生徒にも起こり得る」という視点を常にもち、日々の観察、学校生活アンケートの活用、面談等により、いじめの早期発見に心掛け、いじめが認知された時は組織として迅速に対応する。 ・心の教育を通して思いやりや心育成する。	B	・いじめアンケートを6月と11月に行い、いじめが疑われる事案に対しては、学年主任、担任などが本人や保護者から聞き取りを行った。その後、校内いじめ対策委員会を開催し、今後の対応等について協議した。今年度のいじめの認知事案は6件であり、県教委にも報告し早期解決に努めている。また、集会時にいじめについて話をする中で今後の防止策も講じることができた。組織的な対応ができていると回答した職員は75%であった。	B	・教職員の声かけで救われる生徒も多いと思う。今後も生徒の様子を観察し、いじめの早期発見に努めてほしい。 ・アンケート等によるいじめの把握が行われ、組織として、いじめの早期発見と解決に対する取り組みがなされている。引き続き、いじめの早期発見と早期対応に努めていただきたい。	生徒指導部
	○教育相談体制の充実	○教育相談室の積極活用で、年間30日以上欠席者数を10名未満にする。 ○生徒が授業に行けるようになることを目標とした声掛けを工夫し、欠課数を極力減らす。	・SCの活用や教育相談連絡会、特別支援教育委員会を通して職員間の共通理解を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができる方策を図る。 ・保護者に対してもSCの利用を勧める。 ・教育相談室を開放し、利用しやすい雰囲気を作る。 ・学びたいが教室に入れない生徒の把握を行う。	B	・30日以上欠席者が1年生6名、2年生4名、3年生10名となり、10名以内とはなかった。目標を達成するには抜本的な取り組みの必要性を感じた。 ・スクールカウンセラーの利用数は多く、希望しても受けられない生徒がいる状況である。また、職員とスクールカウンセラーが情報交換する時間が不足しており、来校時間数の増加が必要である。	B	・コロナ禍で、子どものストレスばかりでなく教職員の負荷も増えている。スクールカウンセラーとの連携など、教育相談体制の充実を図ってほしい。 ・不登校の生徒に寄り添った丁寧な支援が行われている。今後も生徒の心に寄り添う指導を組織的にを行い、不登校問題に粘り強く取り組みてもらいたい。	保健厚生部
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣と健康の自己管理能力の育成	○校内環境美化と学びの場所(教室等)の整備に努める。 ○健康診断を有効活用し、健康意識の向上を図る。特に歯科・眼科の受診率35%を目指す。 ○内科的要因での保健室利用数の減少を図る。	・学校全体でゴミゼロ運動(ゴミ箱の不設置・ゴミの持ち帰り)に取り組み、環境保全の意識を育てる。 ・健康診断後の治療勧告書や、保健だより、食育コーナー等の情報を発信する。 ・部活動に加入させ、心身の健全な発達を促す。 ・職員会議や教科連絡会で、欠席生徒・授業に出ることが難しい生徒の把握を全職員ができるようにする。	A	・ゴミの持ち帰りは徹底できており、減量化に取り組むことができた。生徒会より消しカスとプリントの切れ端だけ集めて学校で処分する案が出され、それを実行しているが、特に問題なく適切に処分されている。 ・健康診断結果をもとに個別指導を行い、歯科61%、眼科68%と目標より高い受診率だった。今後も個別指導に力を入れない。 ・保健便りや健康観察、感染予防対策を通して、自己健康管理の意識向上と感染予防実践力も定着したと思われるが、新型コロナウイルス第7波及び第8波の影響で内科的症状による保健室来室が増え、前年度より100件以上、来室者が増加した。 ・生徒情報の共有により、生徒に対する対応をスムーズに行うことができた。	A	・学校では、教科学習のほか、健康面や人との関わり方や他人への理解など、大人(社会人)として必要なことを学ぶことができる。 ・健康を保持するためには、体育の授業や部活動で体を動かす機会を多く作ったり、食育を充実させる必要があると思う。 ・生徒たちが「明日も学校に行きたい」と思える場所にするために、自由に生き生きと教育活動に取り組むことができる環境づくりが大切だと思ふ。	保健厚生部
	●安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○規則の遵守、防犯・交通安全に関する講演会を実施し意識を高める。 ○加害としての交通事故件数0に努める。	・日々のホームルームや集会等を利用して、道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等について講演等を実施する。 ・定期的に服装頭髮指導を実施し、高校生としてふさわしい身なりを意識づけ、規則の遵守に努める。 ・警察や県生徒指導連盟からの情報提供を参考にプリント・ポスター等で防犯意識を高める。	B	・自転車マナーについては、警察と連携しながら啓発に努めてきた。交通事故については2件発生している。 ・服装頭髮指導は予定通り8回行うことができた。武雄高校生としてふさわしい身なりを意識づけることができた。	A	・交通規則の遵守や自転車のマナー指導については、車を運転する側からお願いしたい。生徒には交通事故の悲惨さや自転車の危険性についても認識してほしい。 ・校則やルールづくりは、教員が細かく指示するよりも生徒たち自身が参画できるようにしてほしい。	生徒指導部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年間平均10日以上年休取得、各種休暇の取得の奨励を行う。	・長期休業中に学校閉庁日を設定するとともに、年休や休暇取得の奨励を行う。 ・留守番電話機能やメール及びメッセージ機能を活用し、職員の業務負担の軽減を図る。 ・部活動休養日の設定や交代での指導等を行うことで、部活動での時間外勤務の削減を図る。 ・職員の在校時間を把握し、時間外勤務の多い職員に適宜、声掛けを行う。	B	・夏季休業中に閉庁日を8日間設定した。年休の取得日数は平均9.1日(昨年度(8.8日)より増加した)。 ・留守番電話の導入やメールでの欠席・遅刻等の連絡により、職員の業務負担が軽減した。 ・週2日以上部活動休業日は、ほとんどの部で実施することができた。 ・時間外在校等時間は月平均42時間31分(昨年度(44時間46分)より減少した)。今後も、行事の見直しや業務の効率化など、働き方改革に向けた取り組みを推進していきたい。	B	・行事の精選と見直しを行うとともに、やらなくてもよい仕事や効果がでない取組を洗い出し、省力化を更に実践して多忙から脱却し、生徒と向き合う時間を確保していただきたい。 ・業務を効率的に行い、時間外勤務の削減に努めてほしい。また、積極的に年休を取得し、ストレス解消にも取り組んでほしい。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○魅力と活力ある高校づくり	◎★地域との協働活動・校外体験活動等の推進	★武雄市との協働による地域課題解決型探究学習を推進し、唯一無二の誇り高き学校づくりに貢献する。 ◎地域の魅力を理解し、地域の将来を考え、実践する力を育む。 ★武雄市まちづくり参画事業に参加した生徒の満足度を80%以上にする。	・武雄市との連携により地域の現状と課題を理解し、地域課題解決に向け、魅力ある地域活性化プランを提案できるよう「探究Ⅱ」(総合的な探究の時間)等を利用する。 ・武雄市市民協働課のコーディネーターと連携し、まちづくり事業を進展させて地域との協働活動に取り組む、実践的な活動を通して地域課題の解決に貢献する。	A	・まちづくり活動は武雄市の全面的な協力により、今年度も充実した活動が実施できた。コロナ禍での活動で生徒が工夫し、感染症対策をとりながらさまざまな活動を実施した。地域の方々との協力も得られ、子どもや一般参加型のイベントは参加者にも好評であった。次年度は佐賀新聞社主催の「さが未来塾」の活動も兼ねることになっており、さらに工夫を加えた充実した活動を期待したい。	A	・「武雄市まちづくり参画事業」の報告会は大変素晴らしい内容だった。引き続き、武雄市と協働して、郷土に愛着を持つ生徒を育ててほしい。 ・勉強だけでなく部活動の実績も文化部・体育部ともに大変素晴らしい。	企画研修部
	○広報活動の充実と志願者の増加	○体験入学の参加者を定員の180%を目標にする。 また、第2回進路希望調査で志願倍率1.1倍を目標とする。	・「武雄高校だより」を年間12回以上発行し、生徒の活躍を紹介する。 ・ホームページに生徒の活動を掲載し、随時更新する。	B	体験入学参加者数や進路希望調査の結果をみると一定の評価を得ていると思われる。ただし、「武高だより」の発行など広報活動については改善すべき点もあった。	B	・県西部の伝統ある中高一貫校としての評価は高い。6年間を見据えた学力向上と人間力育成に期待している。	教務部
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり								
5 総合評価・次年度への展望	・学力の向上については、概ね目標を達成することができた。次年度も電子黒板や学習用PCを有効に活用し、わかりやすい授業を実践していきたい。大学入試の結果についても概ね目標を達成することができた。次年度も大学入試問題研究や教材研究を充実させて教職員の教科指導力の向上を図り、生徒の進路希望の実現に努めていきたい。 ・心の教育、健康・体づくりについては、概ね目標を達成することができた。次年度も自他の生命を尊重する心や他者への思いやり、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の充実を図ってきたい。いじめについては、すべての職員が基本方針を理解し、それに基づいて行動できるよう職員研修を充実させた。 ・業務改善、教職員の働き方改革については、概ね目標を達成することができた。次年度も目標達成に向けてより効果的な取り組みを検討し、業務改善、働き方改革を推進していきたい。 ・魅力と活力ある学校づくりについては、武雄市とのまちづくり参画事業や探究活動を通した研究発表など、地域の現状と課題に目を向けた活動ができた。次年度も地域との協働活動に取り組む、実践的な活動を通して地域課題の解決に貢献していきたい。							